

常陸多賀歴史年表

昭和十四（三十）年に存在した多賀町（たがまち）を常陸多賀と捉え約二千年を超える歴史年表を作成いたしました。
後世に繋げる地元の歴史。新たに年表に付け加えられる史実、未来に付け加えられるであろう出来事。
町の発展と共にこの歴史年表が少しでも役に立つことが出来れば幸せなことと思います。

常陸多賀の始まりは日本書紀に記されていた・・・

紀元前―建葉槌命 鹿島の神 建甕槌に大いなる助力を与え、国栖、甕星香々背男を誅し後倭文布を織り天孫に奉ると云う。

※日本書紀によると多賀町の大甕山あたりに勢力を張っていた甕星香々背男が朝廷の命に反抗したが鹿島神宮の祭神（建葉槌命）・香取神宮の祭神（経津主命）・静神社の祭神（建葉槌命）が征伐させたと記されています。また常陸風土記には夏涼しく冬は温暖な地で、魚貝類等が非常に多く山野には椎やクヌギ・榎や栗の木が生え茂り、鹿や猪がすみ、昔の多賀町の住民はこれをとって生活していた有様が記されており、酒肴を持って集い飲んだり踊ったりして楽しんだそうです。

元号	西暦	ことごと
景行天皇四〇年	一一〇	日本武尊東征の途次遇鹿に駐すると云う。時に国宰川原宿禰と云う。
成務天皇五年	一三五	久自国造に船瀬足尼命任せらる。多賀町を道の口とす。
応神天皇二年	二七一	常陸に六国を置き、常道と云う。多賀町は久自国に属す。
孝德天皇大化二年	六四六	多賀町は久自評となる。
大宝元年	七〇一	大久保に鹿島神社を創立すと云う。
延暦十四年	七九六	森山に八幡宮を創立すと云う。
延暦十七年	八〇〇	坂上田村麻呂東夷征伐の折大久保鹿島神社に詣つと云う。
大同二年	八〇七	成沢に鹿島神社を創立すると云う。
貞観十年	八六八	水木の泉神社、従五位を賜られる。
永承七年	一〇五二	森山八幡宮に源頼義奥征の途次詣つと云う。
寛治元年	一〇八七	源義家奥征の途次多賀町を過ぐると云う。
養和元年	一一八一	源頼朝、大窪、塩浜、世谷の地を鹿島神宮に寄進す。
元暦元年	一一八四	鹿島神宮社領大窪郷を伊賀光季の代官光依、冒して鎌倉右大将より制止の下文が二度も下る。
文治元年	一一八五	金沢伊勢神社創立すと云う。
安貞元年	一二二七	伊賀光依再び鹿島神宮社領、大窪郷を冒して鎌倉より制止の状が下る。

元号	西暦	こと が ら
建長二年	一二五〇	信州諏訪より諏訪神社分霊を奉持し、神官万年太夫高利並びに海野氏諏訪村へ移し祀る。
建武二年	一三三五	北畠顕家、義貞親王を奉じ上洛の途次、甕ノ原にて佐竹貞義の軍と戦う。
応永二四年	一四一七	大窪常光その子光春と共に長倉城に山入義興と戦い討死す。
応永二六年	一四一九	奥州泉郷石川詮持の三男光輝大窪家へ養子となり茂光と改む。
応仁元年	一四六七	大久保に常光寺を開基す。大窪茂光施主となる。
文明一七年	一四八五	大久保常光寺開山、金蓮社正誉善作大和尚遷化す。
天文十年	一五四一	大久保正伝寺開基す。以前は地僧を置くと云う。
天文十三年	一五四四	大久保正伝寺開山寂翁和尚遷化す。
永祿五年	一五六二	相馬盛胤兵を率いて佐竹領に侵入、孫沢館陥る。八月十五日佐竹義重と戦う。坂上三十六騎相馬勢を孫沢川に追い落とす。
永祿六年	一五六三	河原子勝沢山へ相馬方戦死者を葬り塚を築くと云う。
文祿二年	一五九三	大久保池の工成る。
文祿三年	一五九四	石田三成常陸の検田使となり、家臣藤林三衛門縄入奉行となり検地す。
慶長二年	一五九七	大沼に大山祇神社を創立すと云う。
慶長五年	一六〇〇	金沢覚念寺を久慈郡小瀬村より移すと云う。
慶長六年	一六〇一	大久保外城の地へ大久保久光薬師堂を建立すると云う。
慶長七年	一六〇二	佐竹氏秋田へ移封国替となり、大窪久光水戸城奪取を企てた罪に依り水戸市外青柳に刑せられる。時に十月二日と云う。
慶長八年	一六〇三	外城の薬師堂を古河内に移す。岡部重政大窪城を引渡す。
慶長九年	一六〇四	街道を改めて今の道路となす。彦坂刑部今の多賀町地域を検地す。 塩浜の名称を旧名河原子と改むと云う。
慶長十一年	一六〇六	街道の両側へ松を植えると云う。

元号	西暦	ことがら
慶長十四年	一六〇九	高鈴山の山公事あり。
元和二年	一六一六	大久保に大火あり、宿中を焼失すと云う。
寛永九年	一六三二	徳川氏、金沢の金坑を採掘すと云う。
寛永十八年	一六四一	徳川氏、望月恒隆をして検地せしむ。金沢の照山修理藩吏に抗して塙山に一家三名刑せらる。大久保菩提の池の工成る。
慶安二年	一六四九	森山、大沼の溜池を築く。
承応二年	一六五三	大久保羽黒の池、下の池、羽黒下の池を築く。
明暦元年	一六五五	菩提沢下の池を築く。
万治元年	一六五八	山横目、山守役を置く。
寛文二年	一六六二	二月大久保に大火あり、向宿橋より下の横町橋迄焼失す。
寛文三年	一六六三	水戸光圀森山八幡宮を吉田神社と改む。
寛文十二年	一六七二	石倉山の山公事起こり小沢十二郷の者と争う。
延宝五年	一六七七	大久保へ観音堂を建立す、智明和尚の代なり。
貞享二年	一六八五	紀州熊野山勸化の為、村々庄屋協力する。
元禄二年	一六八九	普濟寺河原子より油縄子へ移る。河原子より日輪寺森山へ移る。油縄子より東福寺河原子へ移る。大久保愛宕八幡廃せらる。大久保海蔵寺破却せらる。正伝寺へ千手観音を安置す。
元禄三年	一六九〇	成沢宝塔寺、義公の命に依り赤浜妙法寺より移して宝塔寺と名付く。
元禄四年	一六九一	義公、正伝寺へ立寄り一詩を賦せり、大久保八景を選ぶ。
元禄九年	一六九六	大久保を始め多賀町各村々に疫病流行し死者六十三名を出せり。
元禄十三年	一七〇〇	極月（こくげつ・十二月）二十三日下孫に年の市立ち、大久保と公事起る。
宝永元年	一七〇四	成沢宝塔寺鐘銘成る。東福寺油縄子より河原子へ引移る。

元号	西暦	こと
宝永五年	一七〇八	正伝寺へ東金砂郷本尊行基作薬師を安置す。
正徳二年	一七一二	常光寺を平城の下の畠より本丸跡へ引上げ移す。中興開基を法流和尚とす。 此の年より施餓鬼を行う。下孫鹿島神社創立す。
正徳四年	一七二四	常光寺客殿竣工す。
享保十四年	一七二九	河原子東福寺鐘銘成る。
延享元年	一七四四	油縄子普濟寺の鐘銘成る。
寛延元年	一七四八	大日照りがつづき田畠の作物枯死するという。
宝暦二年	一七五二	石倉山の公事大久保の勝訴となる。
宝暦十年	一七六〇	大久保の大火下横町より発火向宿迄残らず焼失す。
明和二年	一七六五	河原子に大火あり、本屋百五十戸を焼失す。
明和四年	一七六七	河原子天神内へ豊年大明神を建立す。
明和五年	一七八六	岡部元徳死す。年六十九歳。
明和八年	一七七一	河原子愛宕明神、東福寺の支配となる。
安永九年	一七八〇	諏訪多宝院祐誠死す。年六十八歳。
天明六年	一七八六	大雨降りつづきて農作物流失し崖崩れ頻々と起る。
寛政二年	一七九〇	水木に大火あり、本屋二百戸を焼失する。
寛政十年	一七九八	河原子再び大火となり本屋三百九戸を焼く。
享和二年	一八〇二	河原子塙台より牛頭天王を天神境内へ移すと云う。
文政二年	一八一九	大久保古河内の鈴木白兔園死す、年六十六歳。江戸小石川善心寺に葬る。
天保三年	一八三二	水戸藩主烈公諏訪村多賀野神官宅錦谷亭に遊び梅樹を植え鮎川へ河鹿を放つ。
天保七年	一八三六	水城海岸防備の為東山に陣営を築き、先手同心頭安藤内匠為由烈公の命を以って赴任す

元号	西暦	ことがら
天保八年	一八三七	大窪詩仏江戸に死す、年七十一歳、墓地は神奈川県藤沢町にある。
天保十一年	一八四〇	大久保に郷校暇修館設けられる。
嘉永三年	一八五〇	諏訪明神河原子浜へ出社する。
寛永四年	一八五一	河原子東福寺再興す。湊華藏院導師となり式を行う。
文久二年	一八六二	河原子の黒沢五郎同志と共に江戸高輪東禅寺を襲い後、坂下門に老中安藤対馬守を襲撃して死す、時に正月十五日、年十九歳
元治元年	一八六四	助川城主山野辺氏諸生党と石名坂に戦い大沼、金沢にても戦う。 天狗党、田中愿藏の一隊、金沢に諸生党と戦う。森山日輪寺、金沢寛念寺、長清寺兵火に罹り灰燼に帰す。成沢村に二本松勢陣を置く、成沢宝塔寺兵火に焼失す。
明治四年	一八七一	廃藩置県が行われる。後の多賀町を形成する各村は水木、森山、大沼、金沢、河原子、大久保
明治五年	一八七二	五月、里正、組頭等を廃して区制とし戸長、副戸長が置かれる。始めて戸籍が作られる。
明治六年	一八七三	各村落に小学校開設される。八月に郷校「暇修館」を校舎として大久保小学校が開設
明治八年	一八七五	森山に郵便取扱所が設けられる。
明治十二年	一八七九	戸長の公選が行われる。
明治二十二年	一八八九	四月一日、市町村制実施される。多賀町地域内の町村名は坂上村（水木、森山、大沼）、国分村（金沢、下孫、大久保）、河原子町（河原子）、鮎川村（油縄子、諏訪、成沢）
明治三十年	一八九七	海岸線開通し、下孫駅開設す。（現 常磐線常陸多賀駅）
明治三十五年	一九〇二	七月、河原子に水道敷設される。
大正三年	一九一四	河原子に始めて消防組設置される。
大正五年	一九一六	下孫に消防組設置される。以下各村落に相次いで設置を見る。
昭和十四年	一九三九	四月多賀町誕生（国分村・河原子町・鮎川村が合併）。日立製作所多賀工場創業する。
昭和十四年	一九三九	十月一日、駅名を下孫駅から常陸多賀駅に改称される。

元号	西暦	こと が ら
昭和十六年	一九四一	二月、坂上村が多賀町に合併され大多賀町が誕生した。
昭和十七年	一九四二	十二月二十五日 常陸多賀駅近くの商店街に地元有志によって映画館・多賀会館を開館
昭和二十年	一九四五	七月十七日、多賀町一帯米軍の艦砲射撃を受ける。
昭和二十二年	一九四七	四月一日、多賀中学校開校。九月一日、日立電鉄線大甕駅－鮎川駅間が開業。
昭和二十四年	一九四九	四月、多賀町制施行十周年記念祭行われる。五月、茨城大学工学部 旧多賀工業専門学校 開設
昭和二十八年	一九五三	二月十一日、多賀町に県立多賀高等学校開設（開校は四月一日）
昭和二十九年	一九五四	九月二日、常陸多賀駅前に映画館多賀中央劇場開館
昭和二十九年	一九五四	十一月、多賀町で日立市への編入に反対の運動が起こる
昭和三十年	一九五五	二月十五日、多賀町は日立市へ編入される。
昭和三十年	一九五五	四月十四日河原子町で大火。三十四戸、二百十二棟を焼き、罹災者百五十六人をだす
昭和三十年	一九五五	六月二十日、常磐線常陸多賀駅の駅舎改築工事竣工
昭和三十四年	一九五九	二月十三日多賀町に国際東映（映画館）開館
昭和三十四年	一九五九	十月十四日、新たな県道として多賀町の常陸多賀停車場を起点とし、国道六号線交点を終点とする区間を本路線とする県道常陸多賀停車場線として県道路線認定した
昭和三十五年	一九六〇	多賀中学校大久保分校完工（翌一九六一年四月、大久保中学校として開校）
昭和三十五年	一九六〇	常陸多賀駅前広場を、日立都市計画多賀土地区画整理事業に伴い整備する。
昭和三十九年	一九六四	十一月五日、多賀に日映劇場（映画館）オープン
昭和四十一年	一九六六	十一月二十三日、多賀にあんず並木を造成。子供会が植樹
昭和四十二年	一九六七	一月十九日、市内初のボーリング場油縄子にオープン
昭和四十二年	一九六七	県道常陸多賀停車場線（よかつぺ通り）と六号国道交差点に歩道橋設置
昭和四十四年	一九六九	四月、諏訪小学校開校。大久保小学校石内地区より百三十五名転校
昭和四十五年	一九七〇	日立産業文化会館の地下一階、地上一、二階にショッピングセンター「電鉄プラザ」を開店。市民会館や図書館が入った産業文化会館は5階建てエレベーターが付いていた。

元号	西暦	ことがら
昭和四十六年	一九七二	四月、金沢小学校開校。大久保小学校塙山地区より八十七名転校
昭和四十八年	一九七三	九月、大久保小学校創立百周年記念事業を行う。
昭和四十九年	一九七四	九月二十二日、市民の祭典「第一回よかつぺまつり」が多賀駅前大通り（後によかつぺ通りと呼ばれる）及び旧国道通り・駅前商店会通りの商店街を歩行者天国として開催。
昭和五十四年	一九七九	四月、塙山小学校開校。大久保小学校より百三十六名転校
昭和六十二年	一九八七	七月、常陸多賀（千石町店）にセブンイレブンがオープン
平成三年	一九九一	五月、日立駅前と常陸多賀駅にて「第一回ひたち国際大道芸」が開催される
平成十四年	二〇〇二	五月、会社と地域の文化や武道の場として利用された日立製作所の福利施設「清和館」が老朽化のためその役目を終了した。後に取壊し日立市多賀市民プラザ建設する。
平成十八年	二〇〇六	四月、清和館跡地に日立市多賀市民プラザがオープン。日立市役所多賀支所、日立市多賀市民会館および日立市大久保交流センターの三機関が入る。
平成二十二年	二〇一〇	七月、河原子海岸にて「第一回サンドアートフェスティバル」開催。
平成二十三年	二〇一一	三月十一日に発生した東日本大震災で常陸多賀も震度6強、甚大な被害を受ける。 河原子海岸に5.8 mの津波が押し寄せ旅館や民宿、民家に被害
平成二十四年	二〇一二	六月二十八日、常陸多賀駅前再整備計画によりロータリーを県内初のラウンドアバウト方式に改修し完成した。
平成二十五年	二〇一三	四月、常陸多賀マークプロジェクトで常陸多賀のロゴマークを活用し新たな街づくりを多賀地区連合商店会で企画。常陸多賀オリジナル製品の開発が始まる。
平成二十五年	二〇一三	十一月、常陸多賀・桜川町の六号国道沿いにカフェ・スターバックスがオープン
平成二十八年	二〇一六	三月二十六日 常陸多賀駅前通で旧「かどや」「石井齒科」をシェアオフィスに改装した記念イベント「ひたちたがクリエイターズまるしえ」開催。
平成二十八年	二〇一六	九月十七日～十一月二十日まで茨城県北芸術祭「KENPOKU ART2016」が開催される。常陸多賀駅前商店街も会場になりアーティストの作品が展示される。
平成三十一年	二〇一九	二月十日 第一回常陸多賀かどや寄席を開催。おぼんこぼんのこぼん師匠・チャイム・母心（日立市出身）・ねばねば音頭の漫才寄席で賑わう。
令和元年	二〇一九	六月二十三日 第二回常陸多賀かどや寄席開催。浅草ニューウェーブ出演 大盛況

元号	西暦	こと が ら
令和元年	二〇一九	七月二十四日 常陸多賀駅周辺地区整備計画の策定にあたり策定委員会が開催 日立市最後の駅周辺改修工事は十年後の完成を目指し新たな多賀の街づくりが始まる。
令和二年	二〇二〇	二月九日 第三回常陸多賀かどや寄席開催。 ・ねづっち・新宿カウボーイ ・おせつときょうた・ねばねば音頭の漫才寄席で賑わう
令和二年	二〇二〇	四月七日 新型コロナウイルス緊急事態宣言発令 同十六日より全国に区域を拡大し 茨城県は特定警戒都道府県に位置づけされた。発令にともない常陸多賀地区で開催され 続けてきた「ひたち国際大道芸」と「市民の祭典・よかつぺまつり」の本年度開催の中 止が決定された。
令和三年	二〇二二	三月二十一日～二十七日 常陸多賀DIYイベント開催 茨大工学部の学生と 地域住民との交流会を駅前にて開催。木製の手作り椅子を製作し多賀街に設置した。
令和三年	二〇二二	七月二十四日 第四回常陸多賀かどや寄席開催 コロナ禍での寄席のため 密を避けられるよう多賀市民会館で開催となる。 おぼんこぼん、浅草ニューウェーブ、 立木竜一、ねばねば音頭の漫才やコント、歌で賑わう。
令和三年	二〇二二	九月 第二週に開催される「市民の祭典・よかつぺまつり」の開催が中止になる
令和四年	二〇二二	七月三十日 第五回常陸多賀かどや寄席開催 コロナ禍での寄席のため密を避けられ るよう多賀市民会館で開催となる。席は全席開放になった。U字工事、びろき、ビッキ スモールン、ロケット団、立木竜一、ねばねば音頭の漫才や漫談、コント歌で賑わう。
令和四年	二〇二二	八月六日、三年ぶりに河原子の花火大会が開催される。
令和四年	二〇二二	九月 第二週に開催される「市民の祭典・よかつぺまつり」の開催が中止になる
令和四年	二〇二二	九月三日多賀市民プラザ、十月二日多賀図書館にて二回にわたり常陸多賀周辺地区グラ ンドデザイン検討ワークショップが開催された。
令和四年	二〇二二	十二月十二～十六日 駅前商店会通りを夜（５～９時）通行止めにしてにて社会実験と して茨大生による「まちの忘年会」が開催される。
令和五年	二〇二三	五月八日 新型コロナウイルスが二類から五類へ移行され社会経済活動の正常化に向 けた大きな区切りとなる。常陸多賀でも十四日には四年ぶりに「ひたち国際大道芸」が 開催され多くの市民でにぎわいを見せた。
令和五年	二〇二三	七月三十日 第六回常陸多賀かどや寄席開催 全席開放で多賀市民会館で開催となる。 おぼんこぼん、宮田陽・昇、びろき、ビックスモールン、母心、シグナルズ、立木竜一、 ねばねば音頭の漫才や漫談、コント歌で賑わう。

[illegible]

「常陸多賀」は4つの町村（十四年に河原子町・国分村・鮎川村 十六年に坂上村が合併）の合併で誕生した多賀町と日立製作所多賀工場の創業の年・昭和十四年に駅名として誕生しました。郵便番号316の名残は日立市と合併する前の多賀町のエリア（森山町から成沢町まで）。まさに大多賀町。

日本書紀より記されている多賀の地域は約二千年の歴史と共に発展してきました。多賀の名前は多くの賀（よろこび）というお目出度い名前。常陸風土記の時代より多珂（たか）と呼ばれた県北地域、後に多賀郡として親しまれ、その名称を唯一受け継ぐ多賀町。常陸の国は常世の国。豊穡の地・理想郷の喜びの多い土地として常陸多賀の名称は地域の人たちに愛されてきました。

また江戸時代の儒教学者で歴史学者 享保の改革でも有名な新井白石が書いた古史通には神々の住まう場所の高天原は常陸国多賀郡であると見解を記しております。今ではその名称を受け継ぐ常陸多賀は超パワースポットとして新たな伝説を生む土地になるであろうと思うのであります。

この常陸多賀の歴史年表と共に町の歴史を受け継ぎ、さらに歴史年表に付け足されるような・・・そのような街づくりを「常陸多賀ロゴマーク」とともに。



常陸多賀を元気にしたい！のコンセプトから生れた

「常陸多賀」マークプロジェクト

オリジナルの「常陸多賀」ロゴマークを活用し

各商店のオリジナル商品や販促物を制作する

多賀地区連合商店会の新たな街づくりプロジェクトです。

多賀街の商店のアイデアをお楽しみください！

そして我が街の名産品としてご利用いただければ幸いです。

〈参考文献及びホームページ〉

- ・郷土の歴史（昭和二十八年 多賀町郷土史刊行会 発行）
- ・大久保小学校 百年の歩み（昭和四十八年 大久保小学校創立百周年記念事業実行委員会 発行）
- ・日立市の歴史点描（ホームページ）
- ・日立市立塙山小学校（ホームページ）

※この常陸多賀歴史年表は古い文献や地域住民の方々から伺った常陸多賀の歴史を参考に作成いたしました。正式な歴史年表ではありませんが、地元歴史の参考資料としてお役に立てて頂ければ幸いです。